

地形分類	地形の特徴	自然災害リスク
扇状地	河川が山間の狭い谷から広い低平地に出る場所に、運搬してきた土砂や砂礫が洪水とともに氾濫・堆積し、谷の出口を頂点として平地に向かって扇状に広がった比較的緩やかな地形をいいます。	大雨の時などには土石流などの土砂災害が発生することがあります。また、扇端部では、地下水位が浅いことが多いため、強い地震動による液状化の被害に気をつける必要があります。
微高地 (自然堤防)	洪水が運んだ大量の土砂が河岸に堆積してできた周囲より少しだけ高い丘のような地形です。 ※治水地形分類図の「微高地(自然堤防)」は自然堤防のほか、扇状地上の規模の大きな砂礫州や古い天井川沿いの微高地も含んでいます。	洪水に対しては比較的安全ですが、大規模な洪水が起こると冠水被害を受ける可能性があります。また、洪水時に河川が運搬した砂礫が堆積した地形なので、地下水位の浅い縁辺部では強い地震動による液状化の発生に注意が必要です。
旧河道(明瞭)	昔に川が流れていた跡の地形です。空中写真などから、比高が判別でき、かつ河道状の形態が見られるものを「旧河道(明瞭)」で取得しています。	明瞭な旧河道の部分は、周囲の氾濫平野より1~2m程度低いため、現在も地表水が集まりやすく、またわずかな降雨でも浸水しやすいため、浸水深・浸水時間も大きくなります。また、軟弱地盤のため、地震動による液状化などの被害に注意が必要です。
旧河道(不明瞭)	空中写真などから比高は判別できないものの、色調や土地利用の違いで河道状の形態を確認できるものを「旧河道(不明瞭)」で取得しています。	
後背湿地	氾濫平野の中でも周囲よりも低い土地で、自然堤防の後ろ側や旧河道等の周辺に分布する低湿地を「後背湿地」として取得しています。	わずかな降雨でも浸水しやすく、浸水深・浸水時間がともに大きくなります。また、地下水位も地表近くにあって極めて軟弱な地盤であることから、地震の際の揺れに特に注意が必要です。

上記以外の地形分類と防災上の留意点については、以下のページをご覧ください。

<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/bousaichiri41051.html>